

令和7年度 第4回 浜松市立丸塚中学校運営協議会

令和8年2月17日(火) 13:30~15:30

会場 丸塚中学校 多目的ルーム

司会：山下 孝二(教頭) 記録：石津谷 訓子(CSディレクター)

1 開会の言葉

2 会長挨拶

3 校長挨拶

4 議長の選出

5 前回会議録確認

6 熟議(議長：)

(1) 学校関係者評価について

(2) 来年度の学校運営基本方針について

(3) 学校運営協議会の自己評価について

7 報告

(1) 夢育やらまいか事業(CS加算分)報告

8 令和8年度の予定(山下教頭)

・第1回運営協議会 令和8年 4月28日(火) 13:30~

・第2回運営協議会 令和8年 9月18日(金) 13:30~

・第3回運営協議会 令和8年11月18日(水) 13:30~

・第4回運営協議会 令和9年 2月16日(火) 13:30~

9 閉会の言葉

学校運営協議会 参加者名簿（敬称略）

○ 運営協議会委員

いながきほうえん
・ 稲垣邦圓

さかいりえこ
・ 酒井里江子

りゅうしな
・ 劉志奈

おのうえひろし
・ 尾上弘

すずきあつこ
・ 鈴木厚子

あおきゆい
・ 青木優衣

なぐらよしろう
・ 名倉善郎

ゆやまきみよ
・ 湯山紀美代

たじませつこ
・ 田嶋節子

（学校支援コーディネーター）

○ 学校職員

・ 校長 わたせますあき 渡瀬益章

・ 担当教員 ひらのだいすけ 平野大輔

・ 教頭 やましたこうじ 山下孝二

・ CS ディレクター いしず やさとこ 石津谷訓子

MEMO

令和7年度 第3回 丸塚中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年11月18日（火） 13時30分から15時40分まで
- 2 開催場所 丸塚中学校 多目的ルーム
- 3 出席委員 稲垣 邦圓、尾上 弘、名倉 善郎、酒井 里江子、
鈴木 厚子、湯山 紀美代、青木 優衣、劉 志奈、
田嶋 節子（学校支援コーディネーター）
- 4 欠席委員 なし
- 5 学校 渡瀬 益章（校長）、山下 孝二（教頭）、平野 大輔（CS担当教諭）
石津谷 訓子（CSディレクター）
- 6 教育委員会 加藤 大輔（教育総務課）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 石津谷 訓子
- 9 議長の選出

司会の教頭山下から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、尾上委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

10 協議事項

(1) いじめ認知とその対応について

11 会議記録

司会から、委員総数9人のうち9人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) いじめ認知とその対応について

平野から、いじめ対応についての資料説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・ いじめに悩んでいる子が多い。その子達が10年経った時に、あんなことがあったが、乗り越えられて良かったと思えるようにしてあげたい。また、保護者の理解が学校側の認識と乖離していることもある。（尾上委員）
- ・ 以前のような肉体的ないじめではなく、言葉やネットでのいじめが増え、内容も変わってきていて難しい問題だと思う。（田嶋委員）
- ・ 学校側から見て、スクールカーストのようなクラス内格差を感じるか。（青木委員）
→ 最近では、強い子がいじめっ子、弱い子がいじめられっ子という事ではなく、加

害者と被害者が逆転したりする。(渡瀬校長)

- ・ いじめといじりの区別も難しい。いじられキャラとして、クラスの人気者ではあるが、本当は嫌な気持ちになっているのではと危惧することもある。(青木委員)
→ 年2回行っているいじめ認知アンケートは、本人がいじめを訴えていなくても、答え方によっては状態が良くない等の判定がでる。アンケート後は、全員と二者面談をしている。いじられキャラの生徒が、強がって訴えられないこともあるかもしれないが、教師は信頼関係を深めて、より生徒の本心に触れられるような資質が求められていると思う。(渡瀬校長)
- ・ いじられキャラであることは本人も分かっている。線引きとキャパシティがあり、同じことをされて受け流せる相手もいるが、親しくない子に同じことをされて嫌な気持ちになることもある。いじってしまった子に関しても、この子は良かったのに、別の子にはいじめと認定されたとなってしまうことがある。(劉委員)
- ・ いじめを受けた時、同じことをされて受け流せる子と、そうでない子がいるというのは、その感情にも向き合う事が必要だと思う。好き嫌いで動いている自分のものさしに対して指導して欲しい。(鈴木委員)
→ いじめと認定した場合、被害者だけでなく加害者にも話を聞く。その時、初めて相手が嫌な思いをしていたことに気付く子もいる。初期段階で認知し、いじめたからいじめっ子というレッテルを張るのではなく、嫌な思いをする子もいるから気を付けようという指導をしている。(渡瀬校長)
- ・ 中学生の人間関係は失敗を通して成長していく。重大化しなければ、良い教育の機会になると思う。生徒の話す力、聞ける力を身に付けさせて、対話力を上げれば解決できるようになると思う。人に話すことによって、自分の心が晴れることもある。学校の思いを、保護者に伝える方法があれば良いと思う。(尾上委員)
- ・ 生徒からでなく、保護者からいじめの訴えがあった時は、学校はどのような対応をしているのか。(青木委員)
→ 丸塚中学校では週1回の会議の他、その対応では間に合わない時は、緊急いじめ対策委員会で対応することもある。学年や部活等関係している職員で、これからのどのような指導をしていくかを話し合い、すぐに対応していく。(渡瀬校長)
- ・ 解決まで、長引くことはないのか。(青木委員)
→ 被害者側が大事にしたいくない、また加害者の報復を恐れて相手に指導しないで欲しいと言われると長引くケースがある。解決まで時間が掛かる時は、途中経過も報告する。(渡瀬校長)
- ・ 保護者の立場で、生徒間のトラブルを知った時、どのタイミングで学校に伝えれば良いか。(青木委員)
→ なるべく早い方が良い。生徒が我慢している時間が長ければ、それだけ苦しい時間が長くなってしまふ。(渡瀬校長)
- ・ 過去にいじめられていた子の作文を読んだことがある。「誰にも知られたくない辛い気持ちを、母親だけに紙に書いて伝えた時、母親が『私はあなたの味方よ。』と何

度も言ってくれた。私はその言葉で乗り越えられた。」とあった。知られたくない気持ちと、でも誰かに分かってもらいたいという微妙な気持ちの葛藤があるのだと思う。(尾上委員)

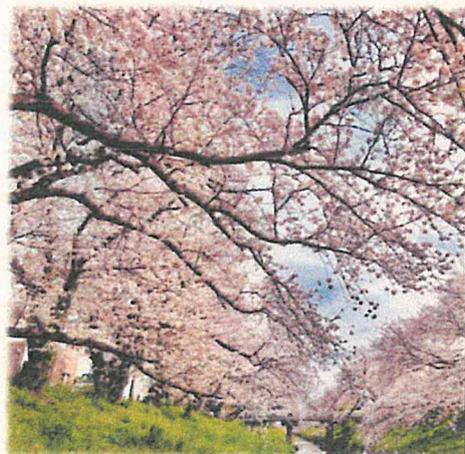
- ・ 寄り添い、共感することも大切だと思う。(酒井委員)
- ・ 校外でいじめのような行動を目撃した時、学校に伝えて良いのか。伝える方が良いのなら、地域としてはそういう心掛を共有出来たら良いと思う。(鈴木委員)
- ・ ふざけているのか、いじめなのかの判断が難しい。いじめでないかもしれないのに、学校に報告しても良いのか。(湯山委員)
- こんな様子でしたという連絡でも構わない。(渡瀬校長)
- ・ いじめにあった子は、親や先生、友達に伝えている子は多いのか。(稲垣委員)
- 多い少ないとは一概には言えないが、小さな事でも声を挙げやすい環境にはあると思う。(平野)
- ネットなどでの見えにくいいじめは、学校も親も気づけず、表面化した時には重大化していることもある。ただ、中学生は担任だけでなく教科担任の先生ともつながっているため、そこから情報が挙がることもある。(渡瀬校長、山下教頭)
- ・ いじめをしてしまう子は、不満を抱えていて、心が安定していない場合もあるので、学校で毎朝やっている黙想を続けて、心を落ち着かせる事も大切だと思う。話しやすい先生が身近にいるのも良い。(稲垣委員)
- ・ 保護者へは、いじめアンケートを通して現状を伝えてはどうか。地域には、子供たちが良くない事をした時に、誰にも何も言われぬという無関心な環境を作ってはいけない事を伝えて行きたい。(尾上委員)
- ・ いじめの概要を地域に周知するのはなかなか難しいが、私たち協議会の委員は、他の地域の組織に籍を置いている方も多いため、この場で熟議した内容を、他の組織にも伝えて行くのはどうか。(名倉委員)
- ・ 健全育成会の講演会の前後に時間を貰って、地域の人や保護者に周知してはどうか。(稲垣委員)

○ その他報告事項等

教頭山下から、第4回運営協議会は令和8年2月17日(火)に開催予定である旨の報告があった。

令和7年度 学校評価アンケート 結果報告

昨年度(R6)との比較に見る、
学校生活の成果と今後の課題



令和7年度の重点: 自己肯定感の向上



成果のハイライト：生徒への浸透

Q:「信・義・愛」を意識できたか？

R6年度

そう思う
32.6%

Q:「対話・信頼・感謝」を意識できたか？

R7年度

成果のハイライト：生徒への浸透

Q:「信・義・愛」を意識できたか？

R6年度

そう思う
32.6%

Q:「対話・信頼・感謝」を意識できたか？

R7年度

そう思う
50.4%

+17.8%
ポイントUP

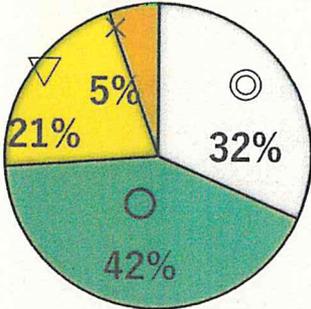


キーワードは単なるスローガンで終わらず、生徒の内面に浸透。過半数の生徒が「強くそう思う」と回答しており、昨年度から飛躍的な向上を見せました。

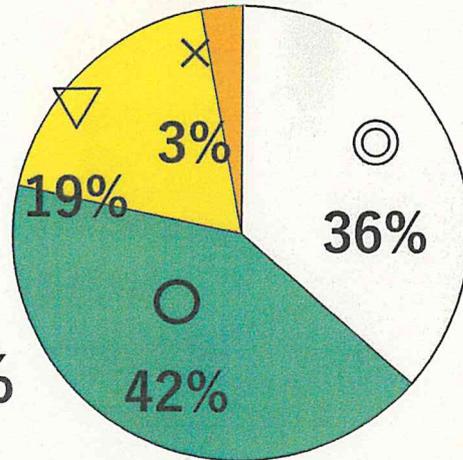
自己肯定感への波及効果

Q 自分には、いいところがある（自己肯定感）

令和6年度



令和7年度



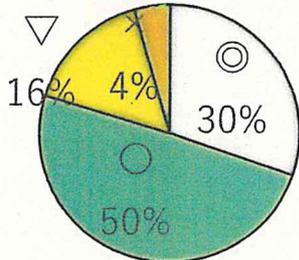
74%⇒78%

生徒へのアンケート結果より

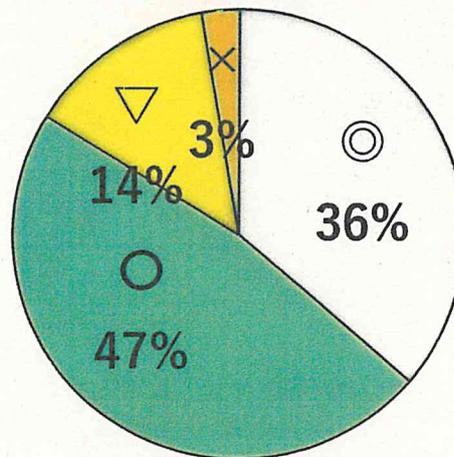
自己肯定感への波及効果

Q 仲間から、自分のよいところを認められている。

令和6年度



令和7年度



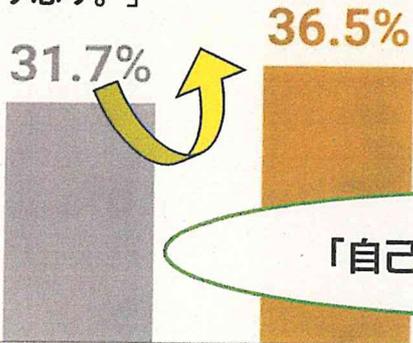
80%⇒83%

生徒へのアンケート結果より

自己肯定感への波及効果

問6：自分には良いところがある

「そう思う。」



問9：仲間から認められている

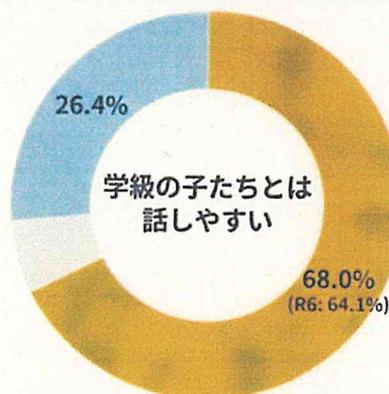
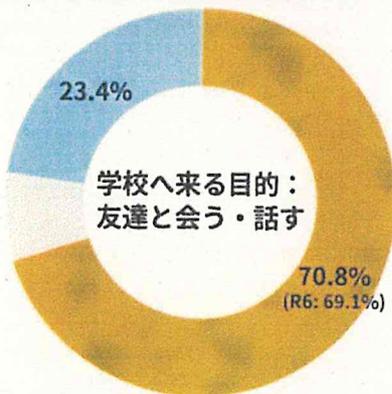
「そう思う。」



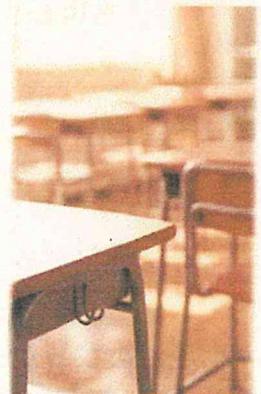
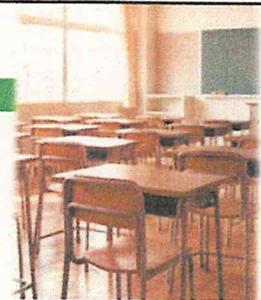
「自己肯定感」の質の向上

生徒へのアンケート結果より

仲間の存在と居場所

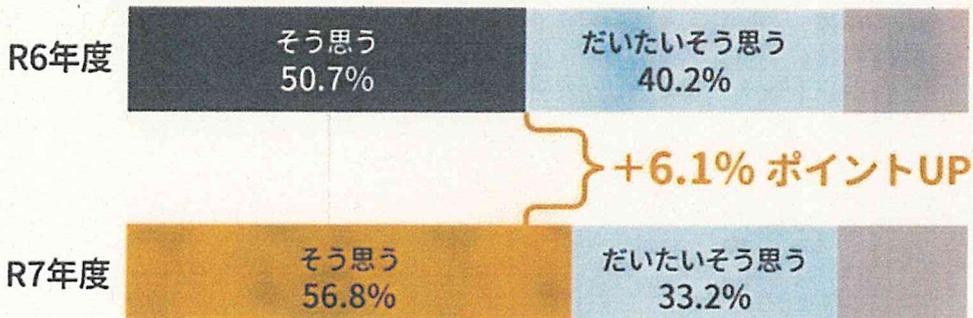


学校が社会的な居場所として機能しています。特に「話しやすさ」（問22）の向上は、学級内の心理的安全性が高まっていることを示しています。

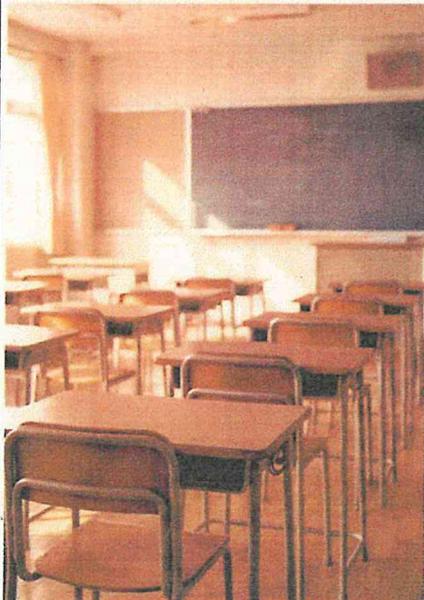


信頼関係の深化

Q:先生には相談しやすい



肯定的回答の総数は90%と高水準で安定していますが、特筆すべきは「そう思う」という強い信頼感の増加です。受動的な関係から、より深い信頼関係へと質が変化しています。



学校満足度の向上

問1：明日も来たくなる学校か

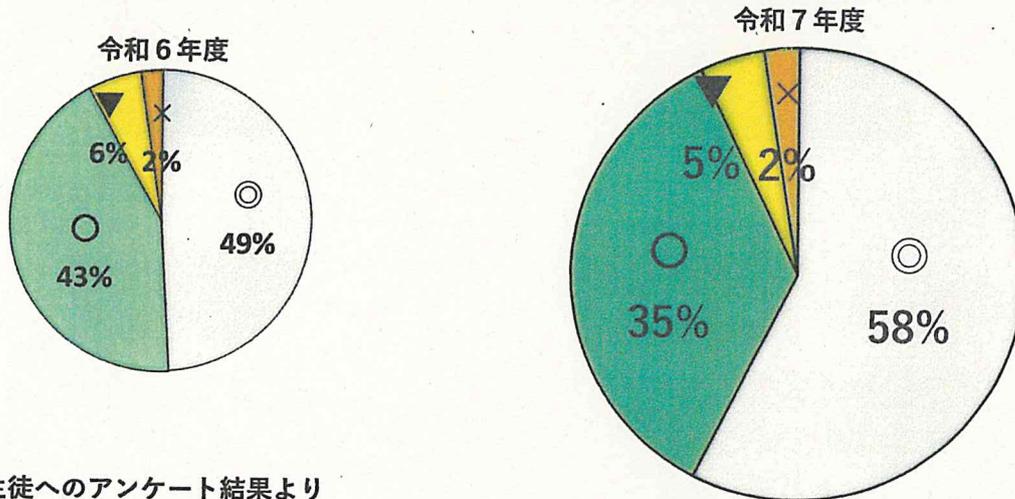


これは私たちの活動の最終的な成果指標です。明日も学校に来たいと『強く』思う生徒が6割に迫り、昨年度から8.5ポイント上昇しました。

© NotebookLM

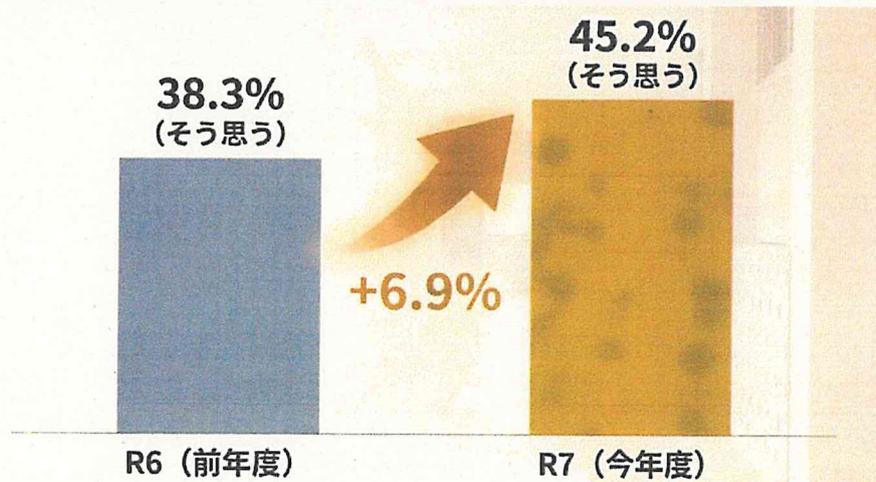
学校満足度の向上

Q あなたにとって「明日も来たくなる丸塚中学校」である



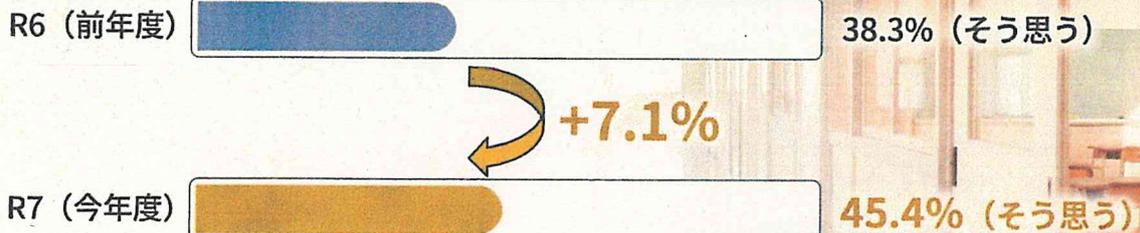
学習へのポジティブな影響

Q:学校に来る目的は学習することである。



困難に立ち向かう力

Q:困難なことにもあきらめずに取り組んでいるか？

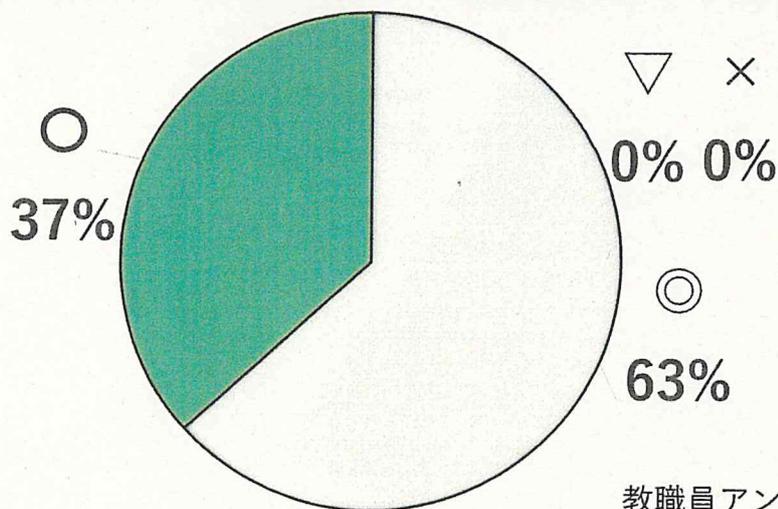


自己肯定感とは、単に気分が良いことではなく、失敗しても立ち直る力（レジリエンス）です。周囲への信頼感がセーフティネットとなり、粘り強さが育まれています。

Data from Question 10
© NotebookLM

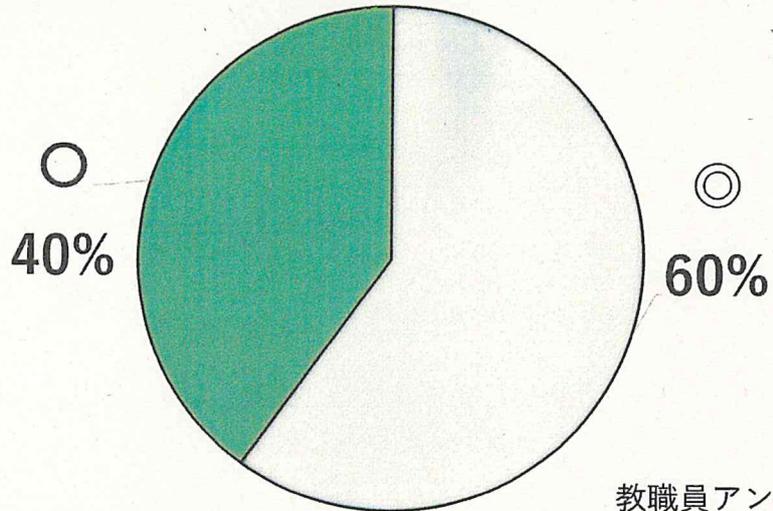
「いじめ」の指導

Q:いじめは許されないという指導をしているか。



「いじめ」の指導

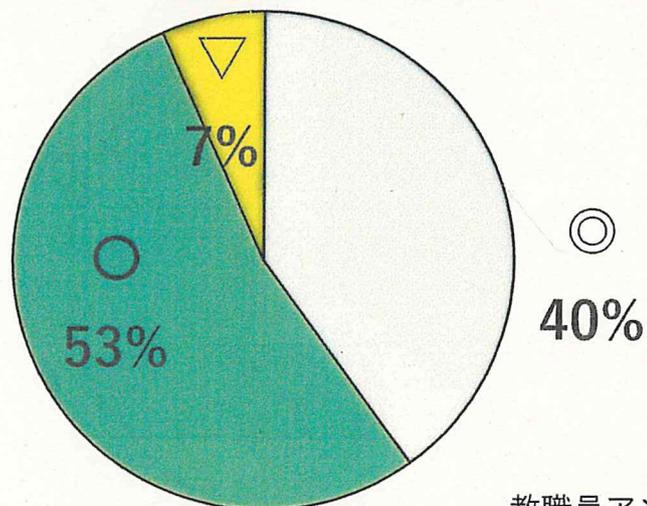
Q:いじめや問題行動に組織的に対応しているか。



教職員アンケート結果より

「いじめ」の指導

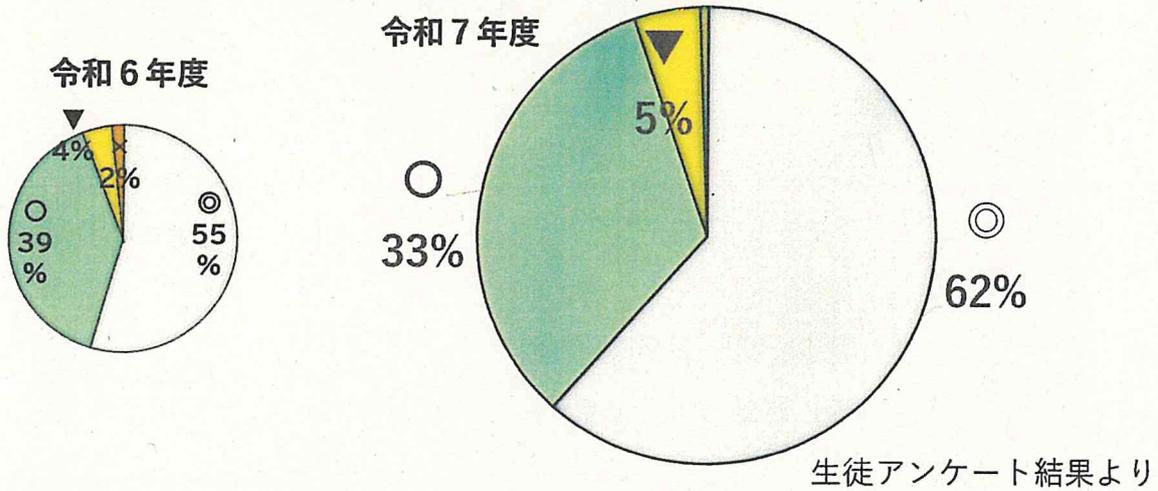
Q:命の尊厳について指導しているか。



教職員アンケート結果より

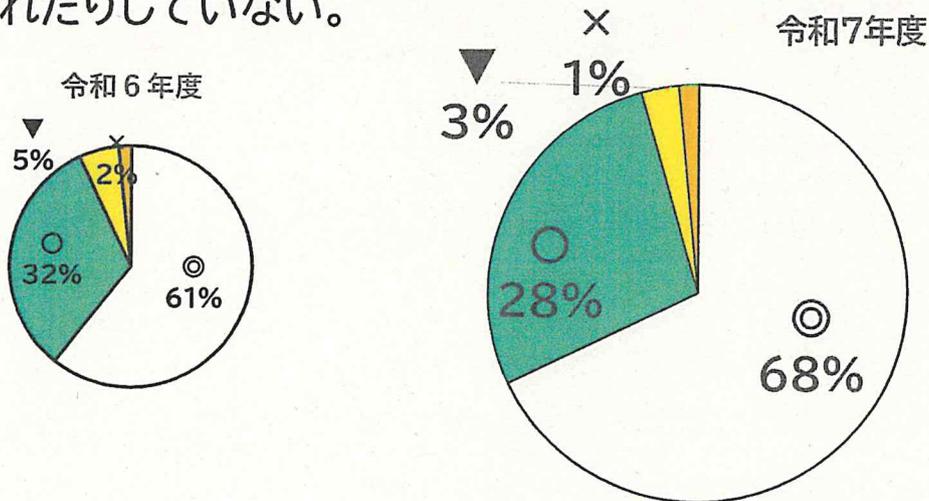
「いじめ」

Q 自他の命の大切さを知っていて、悪口を言ったり、無視したり、仲間はずれをしたりしていない



「いじめ」

あなたは悪口を言われたり、無視されたり、仲間はずれをされたりしていない。



SNS利用についての認識のずれ

生徒の自信 (問25)

SNSは正しく使っている

73.9% (そう思う)



保護者の不安 (問14)

SNS等を適切に利用できている

11.5% (そう思う)

「あまりそう思わない」が
102名 (約21%) 存在



生徒は「できている」と感じていますが、保護者は強い不安を抱えています。この認識のズレは、今後のトラブルの火種となる可能性があります。

© NotebookLM

令和7年度の成果まとめ



「対話・信頼・感謝」の浸透

意識して活動する生徒が**50%**を超え、学校文化として定着。



自己肯定感と安心感の向上

自分を認める生徒、明日も学校に来たい生徒が大幅に増加。

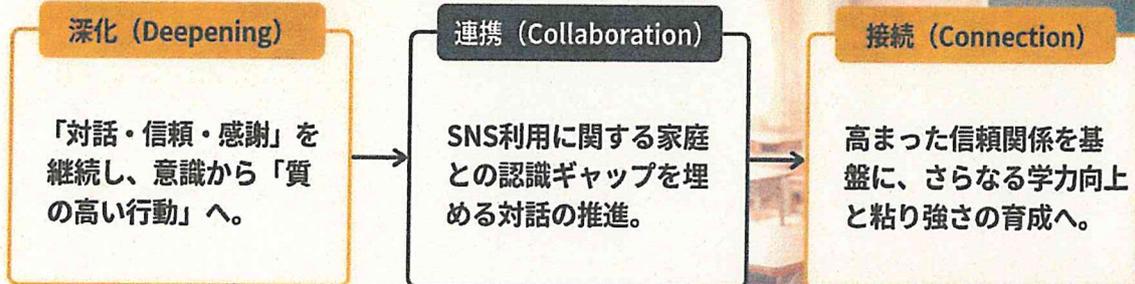


学習意欲への波及

心の安定が、学習へ向かう意欲と粘り強さを後押しした。

© NotebookLM

次年度（令和8年度）の展望



「自己肯定感の育成」は単年度のプロジェクトではなく、継続する文化へ。

1 はじめに

これから子供たちが生きていく未来は、予測困難な時代であり、「VUCA」の時代とも言われている。(変動性 Volatility、不確実性 Uncertainty、複雑性 Complexity、曖昧性 Ambiguity の頭文字をとって「VUCA」)

しかし、そのような予測困難な社会の変化に受け身で対処するのではなく、主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら自分の可能性を発揮し、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら、よりよい社会と幸福な人生を自ら創り出していける力の基礎を身に付けられるようにすることが学校の使命だと考える。学校の役割は、まさに2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成なのである。

また、経済的な豊かさのみならず、精神的な豊かさや健康まで含めた幸福や生きがいとらえる「ウェルビーイング (Well-Being)」の考え方が重視されており、誰一人取り残すことなく、誰もが生き生きとした人生を享受することのできる共生社会の実現を目指し、その実現に向けた社会的包摂を意識した教育を推進する必要があると考える。

◆国の教育振興基本計画 (第4期教育振興基本計画 R5.6.16)

基本方針・コンセプト

「2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」

「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」

◆はままつの教育 (第4次浜松市教育総合計画 R7~R16)

基本理念 「描く夢や未来の実現」

コンセプト 「主体性」「多様性・包摂性」「信頼・協働」

目指すこどもの姿 「自分らしさを大切にするこども」

「他者と協働し、主体的に行動できるこども」

「自己調整しながら、粘り強く取り組むこども」

目指す教職員の姿 「こどもの自分らしさを受け止める教職員」

「愛情と情熱、規範意識を持ち続ける教職員」

「専門性と指導力を磨き続ける教職員」

2 本校が目指す教育

(1) 丸塚中学校区が目指す子供の姿 「人が好き 学校が好き この街が好き」

(2) 校訓 「誠実」 (真心があって、いつわりなく真面目なこと)

(3) 学校教育目標 「志を持ち 自ら学び 良さを伸ばし合う生徒」の育成

<参考> 佐藤小学校 校訓「創造」

学校教育目標「かがやく子」

～ 良く考える子・思いやる子・健やかな子 ～

蒲小学校 校訓「かがやこう」

学校教育目標「咲かそう 蒲桜」

～ やさしさ やる気 夢 いっぱい ～

(4) 目指す学校像

「明日も来たくなる丸塚中学校」

～誰もが安心して学ぶことができる居心地の良い学校～
他者と協働しながら価値の創造に挑み未来を切り開く

(5) 目指す生徒像

<知育> 志を持って粘り強く学び続ける生徒

- 授業を大切にし、**主体的**に学習に取り組もうとする意欲あふれる生徒
- 他者との**協働**、学び合いを通して自分の考えを振り返り、深めることができる生徒

<徳育> 自他の良さを認め合い、共によりよく生きる生徒

- 多様性**を認めお互いを尊重し合い、いじめや偏見・差別を許さない生徒
- 正しい判断と勇気ある行動を通して、様々な立場や価値観を受け入れ調和を図ることができる生徒

<体育> 夢の実現に向かって努力し、生きる力を支える心身を磨き鍛える生徒

- 成就感や満足感を積み重ねて、自己肯定感を高めていく生徒
- 命を大切にし、温かな心、強い心、豊かな心を持った生徒

(6) 目指す教職員の姿

①心理的安全性が確保されたチーム型組織の形成

◎教職員・生徒一人一人がそれぞれの個性を認め合い(**多様性**)、安心して精一杯自分の力を発揮でき、受け入れられる雰囲気づくり(**包摂性**)に全力を注ぐ。

(特に教師間における心理的安全性の確保に気を配り、**上機嫌で笑顔**で何でも気軽に相談できる風通しの良い職場環境を築いていくことを最優先とする)

※「上機嫌・笑顔」の理由→「人間最大の罪は不機嫌である」ため(文豪ゲーテの言葉)
「笑い」は免疫力をアップさせ、さまざまな病気の治癒効果を高める。→心身の健康

○他者との良好な人間関係を構築し、円滑なコミュニケーション能力を高めるために、教職員も生徒も「こころパワーアッププロジェクト(人間関係づくりプログラム)」を組織的、計画的に実施する。

②生徒理解に努め、生徒・保護者・地域との**信頼**関係を構築できる教職員集団

○分かり合える関係を築くために、下の①～④の姿勢を大切にする。

①受容(×許容) ②共感(×共鳴) ③理解(×賛同) ④信頼(×鵜呑み)

○いじめ・不登校・問題行動の早期発見と早期解決に努める。

○スムーズな「報・連・相」を実現し、機能する学年、教職員集団を目指す。

(学年を超えてサポートできるプロとしての教職員集団を目指す)

○OSC、SSW、出身小学校、家庭、学校運営協議会、民生委員との連絡会、青少年健全育成会、等との綿密な情報収集・情報交換を心掛ける。

○「学校だより」「学年だより」及びHPブログによる広報活動を推進する。

③生徒に確かな学力を身に付けさせるための授業改善の推進

○「個別最適な学び」と「**協働的**な学び」を一体的に充実させ、「**主体的**・対話的で深い学び」の実現に向けて授業力を磨き続ける。(→対話的活動の充実)

○学校で学ぶことの意義を理解させ、学習の基礎基本の定着と価値の創造に挑もうとする姿勢を育むことを大切にする。

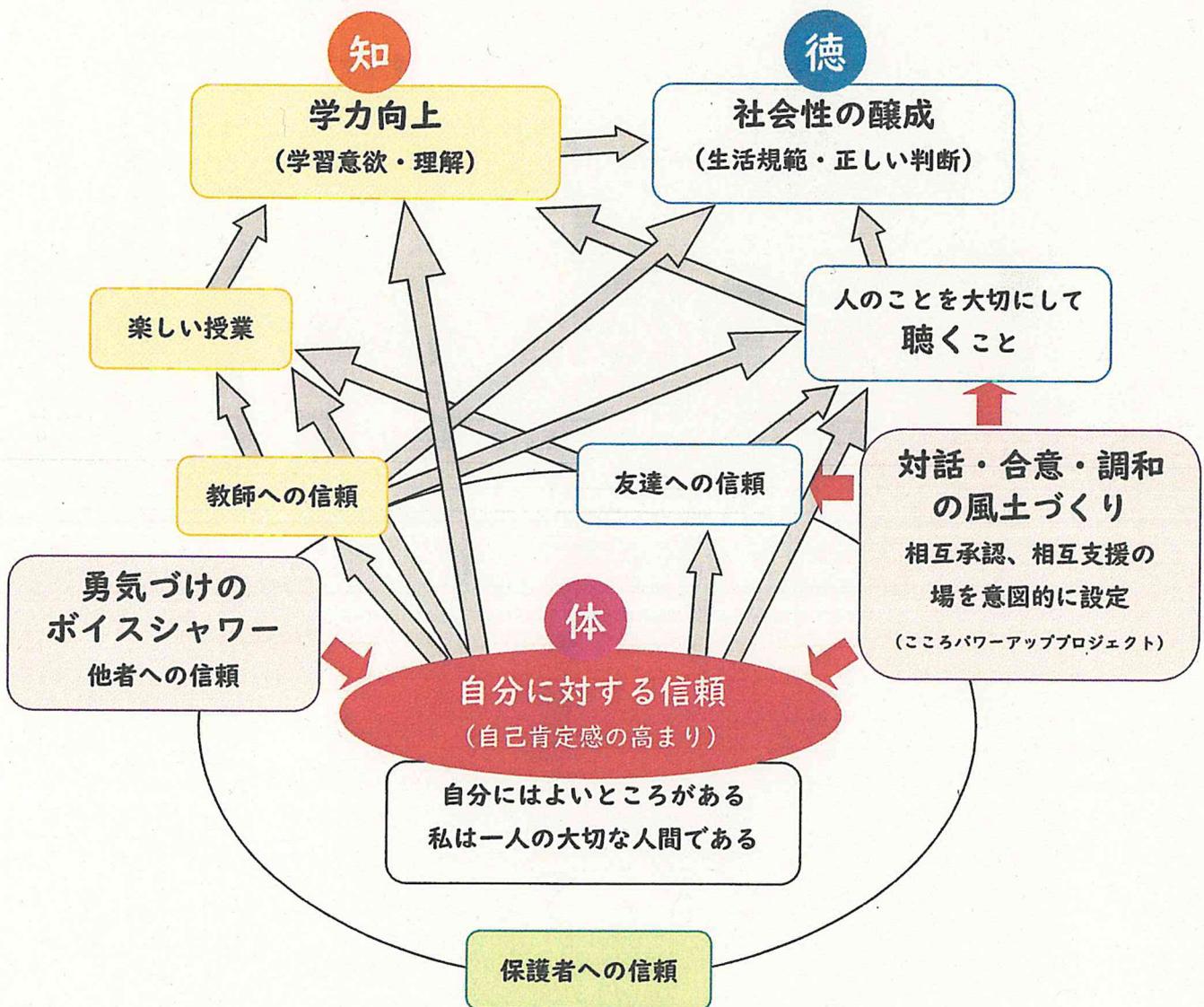
○生徒一人一人に寄り添い、「認め・褒め・励ます指導」を心掛け、可能性を引き出し伸ばす指導を目指す。(勇気づけのボイスシャワー、感謝のボイスシャワー)

○ICT 機器を効率よく活用し、「分かる授業、楽しい授業、磨き合う授業」を実現する。

3. 令和8年度の重点目標

★「対話・合意・調和」の風土づくり

- ①「対話」とは、お互いの意見を傾聴し、尊重し合う中で相互理解を深めていくこと。対話を通して自己開示・他者理解の場を設定して、新たな気付きや価値、関係性が生まれるとさらに好ましい。【A（自分の願い）+ B（相手の願い）→ C（新たな気付き・関係性）】
- ②「合意」とは、複数の人が互いに意見を出し合った結果、それぞれの意見を調整し、全員が納得した上で同じ結論となること。多様性の中から社会全体の「納得解」を生み出す力を育てていくことにつながる。同時にファシリテーション（合意形成に導くための働き）の力も付けていく。
- ③「調和」とは、2つ以上の物事が、矛盾・対立したところがなくバランスよく釣り合いが取れ、心地よさを感じている状態。「対話」「合意」を経て、お互いの信頼関係が深まり、居心地がいい環境が確保される。

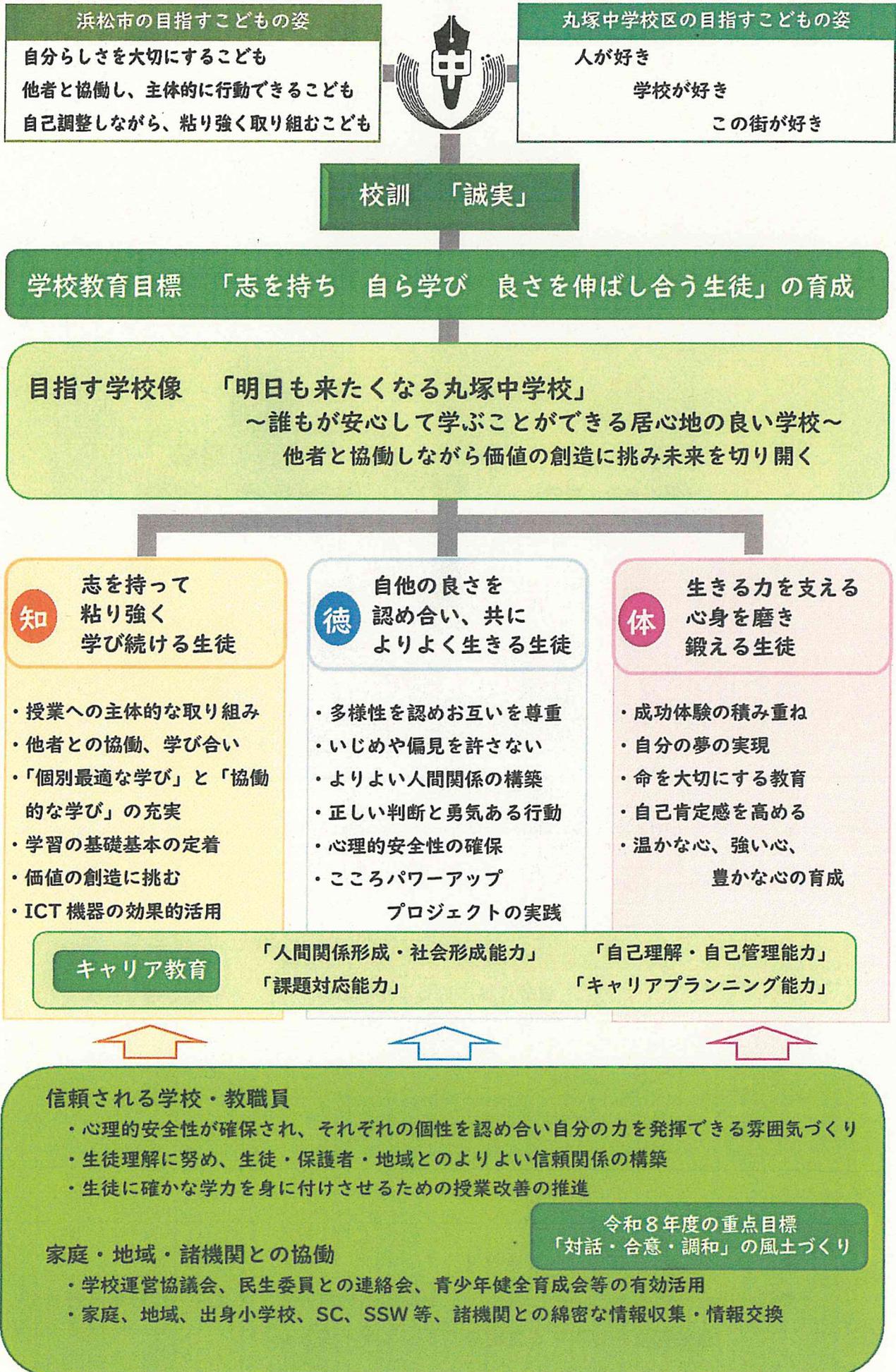


【参考】対話と会話・議論の違い

「会話」…親しい人同士のおしゃべり

「議論」…自分の意見がいかに正しいかを論理的に組み立てて主張し説得する行為で、
価値観を一つにする方向のコミュニケーション

令和8年度 浜松市立丸塚中学校グランドデザイン



(様式2)

令和8年2月13日

浜松市教育委員会 教育総務課
学校・地域連携担当課長

浜松市立丸塚中学校
夢をはぐくむ学校づくり推進協議会
代表 尾上 弘

夢育やらまいか事業（CS加算分）報告書

夢育やらまいか事業のCS加算分の用途等について、下記のとおり報告します。

記

1 学校運営協議会からの意見

別紙「夢育やらまいか事業に対する意見書」のとおり

2 意見に基づき実施した活動等

No.	記号	事業内容	具体的活動内容
1	ケ	地域指導者による 体験学習の充実	年間計10回、計画的に地域の指導者を招き、発達支援級生徒や校内まなびの教室通級生徒が生け花体験を行った。

3 活動に要した経費

夢育やらまいか事業収支決算書のとおり

(様式1)

令和7年5月12日

浜松市立丸塚中学校
夢をはぐくむ学校づくり推進協議会
代表 尾上 弘 様

浜松市立丸塚中学校運営協議会
会長 稲垣 邦圓

夢育やらまいか事業に対する意見書

令和7年5月9日に開催した学校運営協議会において、下記の意見を議決しましたので報告します。

記

1 学校運営の基本方針を具現化するための意見

花や緑に親しむ機会を通して、子供たちに優しさや美しさを感じる気持ちを育みたい。また、教職員とは異なる方との触れ合いの場を設定することにより対話の機会を増やし、コミュニケーション能力を高めていくべきである。

⇒ 年間を通して、計画的（10回程度）に地域の指導者を招き、発達支援級生徒や校内まなびの教室通級生徒が生け花体験を行う。